

平成 26 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	京都府教育委員会
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名
京都府	特別支援学校	知的障害・肢 体不自由	(きょうとふりつうじしえんがっこう) 京都府立宇治支援学校

2 研究テーマ

「地域学習」(地域社会と協働した学習)を中心とした児童生徒一人一人のキャリア発達を実現する教育課程の在り方を目指した実践研究

3 研究の概要

平成25年度の文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」の研究指定から、指定校は「地域学習(地域社会と協働した学習)」に取り組むことによって、一人一人の子どもが卒業後の人生の質、生活の質を自ら高めながら生きていくために必要な意欲、態度、技能、学力を身に付けることができることを実践的に確認した。平成26年度は、この研究成果を更に発展させ、各教科等を合わせた指導等に「地域学習」の観点をもち、生活に生きる基礎的・基本的な学力等を身に付ける「基礎的な学習の時間」を各教科等を合わせた指導として教育課程上に位置付け、「基礎的な学習の時間」と他の各教科等を合わせた指導等とを相互に関連付けて実践を展開することにより、一人一人の子どもが卒業後の生活の質、人生の質を自ら高めながら生きていくために必要な意欲、態度、技能、学力等を一層はぐくむことができるのではないかという仮説を立て、教育課程の在り方について実践的研究を進めていくこととした。また、指定校の特徴的な校内分掌を有機的に機能させることにより、組織的に推進していくこととした。

4 研究の成果

ア「基礎的な学習の時間」の設定による教育の質の向上、及び「基礎的な学習の時間」と他の各教科等を合わせた指導とを連動させることによる一層の効果

「基礎的な学習の時間」を設定したことにより、分かる喜び、できることへの自信、生徒自らの工夫や学習意欲の向上が見られた。さらに「基礎的な学習の時間」の内容等と他の各教科等を合わせた指導の内容等とを同時期に連動させることにより、家庭や地域生活での活用、又は生活全般における意欲・主体性の一層の向上が見られた。

イ「地域学習」の観点をもち、各教科等を合わせた指導で取り組む教育効果、及び「つけておきたい力」と関連させた指導内容の整理

すべての授業に「地域学習」の観点をもつことについて整理し、子ども達の生きる力をはぐくみ、将来の生活の質を自ら向上させるために、こういった実践が効果的であることが確認できた。また、具体的な指導内容を「観点マトリクス（試案）」「一覧表（試案）」として整理することができた。

ウ キャリア教育の視点を生かした授業改善の観点の確認

授業にキャリア教育の視点を生かすことにより、学習意欲や生活意欲、主体的な行動がはぐくまれることが確認できた。

エ 地域に貢献できる学校の在り方の確認

地域住民の協力による避難訓練の実施等により、地域に貢献できる学校づくりの大切さが確認できた。

なお、これらの成果は、「地域学習支援担当」等々指定校の特徴的な学校組織が有効に機能した結果でもある。学校組織の在り方とその機能的な動きが、教育実践を支えるための重要な基盤となっていることも確認できた。

5 課題と今後の方策

ア 「基礎的な学習の時間」の目標・内容・方法等の吟味及び他の取組との連動の在り方による質の向上

・具体的・実地的となる内容や方法、グループ編製の工夫等、他の学習活動との効果的な連動による授業の質の向上

イ 「観点マトリクス（試案）」と「一覧表（試案）」の有効性の確認

・試案の完成及び有効性の確認とともに、効果的活用による授業評価や個々の児童生徒における目標と評価の充実

ウ 家庭との一層の連携と協働

・家庭や地域における丁寧なニーズ把握及び「観点マトリクス（試案）」の活用による協働した取組の充実

エ 宇治支援学校の「地域学習」の深化

・地域への障害のある子どもの理解啓発及び協力を得る関係にとどまらない地域ニーズと十分に合致させた協働した授業の展開、及び交流及び共同学習の推進

オ 学校組織を生かした授業改善の取組及び府内の特別支援教育の拠点校としての発信

・すべての子ども達の希望進路の実現のため、働く意欲を育てる質の高い授業の追求

・人材育成できる実践研究の組織的計画的な実施

・特別支援学校の教育課程・校内組織・授業改善、あるいはセンター的機能としての特別支援学級の授業改善提案等、京都府の特別支援教育の拠点校としての取組発信